



生まれてくる赤ちゃんのために接種する



# RSウイルスワクチン

## RSウイルスとは

小児にとってとても一般的なウイルスで、1歳までに50%、2歳までにほぼ100%の子ども達がこのウイルスに感染します。RSウイルスは、生後間もない赤ちゃんが感染すると重症化する場合が多く、新生児にとってはとても怖い感染症の1つです。

妊婦さんに接種することでお母さんの体内で抗体が作られ、その抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行し、生まれてくる赤ちゃんのRSウイルスによる下気道疾患（気管支炎や肺炎）の重症化を予防することができます。

## 対象時期

妊娠28週0日から36週6日まで

## 接種方法

町外医療機関（接種協力医療機関に限る）での広域予防接種

## 接種回数

1回 0.5mlの肩への筋肉注射



## ワクチン効果

下気道感染症は生後90日以内の乳児において8割、生後180日以内の乳児において7割予防できます。

## 副作用

注射部位の痛み、腫れ、発熱、頭痛、疲労など大部分が2、3日で消失しています。



## 広域予防接種の流れ

**保健センターへ申請し、町外の接種協力医療機関（愛知県内に限る）で接種します。**

### 【申請時持ち物】母子健康手帳

愛知県医師会ホームページで接種希望機関が可能か確認し予約をする。

保健センターに申請し  
①「広域予防接種連絡票」  
②予診票  
をもらう。

接種協力医療機関で接種  
【持ち物】  
①「広域予防接種連絡票」  
②予診票  
③母子健康手帳

## 【問い合わせ】

南知多町保健センター ☎65-0711（内線511～514）